

高速道路開通の波及効果で地域活性化を目指す

1. はじめに

三重県は、日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、紀伊半島東部に沿って南北約170km、東西約80kmと南北に細長い県です。県土のほぼ中央を流れる橿田川に沿った中央構造線を境に、自然環境も北部と南部で異なります。北部では東に内湾の伊勢湾が広がり、西には養老、鈴鹿、笠置、布引などの山脈・山地が連なっています。一方、南部の東は志摩半島から熊野灘に至るリアス式海岸が続き、西には県内最高峰1,695mの日出ヶ岳（大台ヶ原山）を中心に「近畿の屋根」と称される紀伊山地が連なるなど、美しく豊かな海、山、川の自然に彩られています。

また、首都圏と中部圏、近畿圏を結ぶ交通の要衝として、東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道、名阪国道などによる高速道路ネットワークが形成されています。

2. 三重県の現状

桑名市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市などの北勢・中勢地域は、我が国の基幹産業である自動車産業、電機・電子産業、石油化学産業等の大企業やそれを支える多くの中小企業が立地し、本県はもとより我が国の経済活動を支える高い産業ポテンシャルを有する地域で、高規格道路の整備による走行時間の短縮や渋滞解消による定時性の確保などに期待する企業の進出が進み、平成29年の新たな工場立地面積は、62ヘクタールで全

国6位となりました。

一方で、尾鷲市、熊野市などの東紀州地域では、少子高齢化に伴う人口減少が急速に進展しており、今後、一層の定住人口の減少が予想される中、将来にわたって地域の活力を維持発展させていくためには、労働力の減少を上回る生産性の向上が不可欠となっています。

観光面においては、平成28年5月に開催された伊勢志摩サミットのPR効果や、平成29年4～5月に伊勢市で開催されたお伊勢さん菓子博が盛況だったことなどにより、平成29年度の三重県内への入込客数は、4,219万人（前年比+0.7%）となり、2年連続で過去最多を更新しました。

また、三重県を代表する温泉地「湯の山温泉」（菟野町）が開湯1300年を迎え、年間を通して様々な記念イベントが行われているほか、四日市港においては、平成30年1月を皮切りに、外国からの豪華クルーズ客船が計8回（約21,000人の乗船客）寄港することが決まっており、インバウンド観光による交流人口のさらなる増加が期待されています。

3. 新名神高速道路、東海環状自動車道の開通

平成30年度、新名神高速道路の新四日市JCTから亀山西JCTまでの県内区間の全線開通や東海環状自動車道の東員ICから大安IC（仮称）までの開通が予定されています。

新名神高速道路の開通により近畿圏と中部圏を結ぶ日本の新たな大動脈として企業立地の促進や

三重県知事 **鈴木英敬**



地域間の交流がさらに活発になることが期待され、東名阪自動車道の渋滞解消とともに、物流の効率化により産業連携の強化が図られ、企業の事業拡大や地域の経済発展に繋がるものと期待されます。

また、東海環状自動車道（西回り）は、岐阜県と三重県を結ぶ初めての高速道路であり、四日市港と伊勢湾岸自動車道のみえ川越ICを直結する臨港道路霞4号幹線が平成30年4月に開通し四日市港の利便性が高まっていることから、さらなる物流の強化を図るためにも、一刻も早い全線開通が期待されています。

4. 近畿自動車道紀勢線の延伸

東紀州地域の活性化を支える道路として、紀伊半島をぐるっとつなぐ近畿自動車道紀勢線の整備が進められています。

伊勢自動車道の勢和多気JCTから熊野大泊ICまで、順次、高速道路が延伸（尾鷲市内の一部を除く）したことにより、世界遺産「熊野古道」の観光客や「熊野大花火大会」の来場者が増加しています。さらに、高速道路による安定供給・安定輸送が確保されたことから、「三重南紀みかん」や「尾鷲養殖ぶり」などの農林水産資源の海外販路が拡大し、雇用が創出され、新規求人数が年々増加するなど、地域活性化につながっています。

また、尾鷲市では、近畿自動車道紀勢線が延伸するまでの10年間、唯一の幹線道路である国道42号が大雨による通行規制により延べ38回、469時間もの通行止めとなり、陸の孤島となって

いましたが、近畿自動車道紀勢線の延伸により、当路線が国道42号の代替路としての機能を発揮し、天候の影響で、地域経済や地域間交流がストップすることがなくなりました。

5. おわりに

高速道路等の道路ネットワーク整備は、渋滞解消による定時性の確保や移動時間の短縮により、企業の生産性を向上させるとともに、地域活性化の推進に大きく寄与します。平成30年度は、新名神高速道路の供用など三重県内の幹線道路網が一挙につながる年です。県として、地域活性化に向けた観光の魅力を発信するとともに、新たな企業立地として選ばれるように国内外問わず、情報発信にも取り組んでいきます。

また、2021年に、第76回国民体育大会「三重とこわか国体」、第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」が開催されます。三重県では、2021年までを「スポーツイヤー」として位置づけ、スポーツ振興とともに皆様との交流拡大を図るため、「オール三重」体制で大規模スポーツイベントに取り組んでいます。

ぜひ、三重県を訪れていただき、高速道路開通の波及効果による地域活性化をご堪能ください。

三重に、おいない！